

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272000268		
法人名	有限会社 栄寿会		
事業所名	有限会社栄寿会グループホームふるさと		
所在地	長崎県対馬市上対馬町泉1635		
自己評価作成日	平成29年9月12日	評価結果市町村受理日	平成30年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

美しい対馬の自然環境に恵まれた施設で、自宅で生活しているような家庭的な雰囲気の中で、利用者は日々を生き生きと過ごされている。利用者の尊厳を守り、個々に寄り添った介護に努めている。家族、知人等訪問、電話等絶えずあり、入居者、ご家族、介護員が一体となり支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は海や山に囲まれた静かな場所にある。旅館を思わせるエントランスは、バリアフリーとなっており、施設内は清潔感に溢れ、整理整頓が行き届いている。事業所は、「家族への通信」に写真を添えて、毎月家族に送付しており、各利用者の現状を詳細に伝えることにより、家族からの信頼を得ている。職員は、日々のミーティングの中で情報を共有し合い、利用者のより良い支援に努めている。特に健康管理に注意を払い、早めの対応を心がけており、ここ数年インフルエンザ等の感染症は発生していない。リビングに隣接するキッチンから調理の準備風景や匂いを感じることができ、利用者にとって食事は楽しみとなっている。職員は利用者寄り、家庭的な雰囲気の中で、理念である「目配り気配り心配り」を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング等において、職員全体で理念を共有し、実践への取り組みを確認している	理念「目配り気配り心配り」を毎朝のミーティングで復唱している。毎日のミーティングにおいて、職員は利用者の現状を共有し、よりよい支援に努めている。トイレ介助や声掛け等、利用者の尊厳を大切に見守り支援を行っており、理念を実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設等訪問を受け、地域との連携と理解を得るため積極的に親交が図れるよう取り組んでいる。	自治会に加入している。神社の祭事には、御神酒を納める等地域に溶け込む努力を行っている。近隣の公園に利用者と共に散歩に出掛けた際、地域のひとと挨拶や会話を交わしたり、採れたての魚や果物を届けてもらう間柄であり、地域に根差した事業所であることが窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域との交流を深めて、認知症に対する理解を得るよう取り組んで行く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の老人会、老人代表者、市担当者、地域包括支援センター職員の支援をえながら情報交換をし、サービスの向上に取り組んでいる。	年6回、規程の委員構成で会議を実施している。事業所は毎回案内を出す際、予め議題を告知しており、スムーズな進行と活発な意見交換に繋がっている。これまでなかったヒヤリハットの様式を作成したり、自然災害の対策を話し合う等、意見や情報をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議における支援、助言等受けながら積極的に協力関係の構築に取り組んでいる。	市担当課や包括支援センターとは、事業所の現状を伝えたり、運営上分からないことを気軽に相談できる関係を築いている。権利擁護事業制度を活用している利用者もいる。介護保険制度や研修会受講について情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを基本として、個々の尊厳を尊重し利用者に寄り添った介護支援に取り組んでいる。	代表は常に拘束を行わないことを職員に伝えており、研修も行っている。ベッド柵やセンサー等の使用はなく、日中玄関は開錠している。居室で物音がした際、職員は直ぐに居室を覗き利用者の状況を確認している。行動の抑止や人格を否定するような言葉を使わないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修に積極的に参加するようにし研鑽を積みたい。又、利用者一人一人の介護状況を把握し虐待のない介護支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	3名の利用者が権利擁護事業制度を活用されている。制度の研修等積極的に取り組み制度の理解と活用の意義を理解して頂けるよう支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、申込、退去、保険料の改定等生じた時は、ご家族に相談説明を十分に、不安、疑問等抱かれないよう周知に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の施設訪問、電話連絡等で重要事項説明や介護状況、病院受診状況等をこと細かく報告している。毎月の家族通信においても文書にて詳細に報告している。	家族へは「家族への通信」により、病院等受診状況や生活の様子を詳細に伝えている。島外に住む家族も年に1、2回は訪れており、直接話す機会がある。季節の変わり目には、家族へ衣類の入替の依頼を行っている。ただし、独自のアンケートを実施する等、家族の意向を積極的に聞き取る取り組みは行っていない。	約半数の家族が、島外に住んでいる事も考慮し、家族が意見や要望をホーム側へ伝えやすくする仕組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夜勤者の引継ぎ、毎朝のミーティング、臨時等会議において職員、管理者、代表者とのコミュニケーション意思疎通を図り、問題等の認識が共有出来ている。又、職員の意見等聞く機会を設け安心して働ける職場の雰囲気、労働環境の設定に努めている。	介護に関しての問題は、毎朝のミーティングで話し合っている。物品購入の要望は、職員が代表者へ直接依頼できる関係である。職員の資格取得に対して、事業所で積極的に支援している他、職員用のシャワールームやトイレ、休憩室があり、働きやすい環境を整備していることが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金改善については、処遇改善交付金制度を活用し、全職員の給与改善を図っている。勤務表の作成については、事前に休暇希望をとり休みが取れるよう配慮している。年休についても、本人の希望があれば取れるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議や研修には積極的に参加出来るよう勤務表の作成時等において配慮している。資格取得についても積極的に資格取得を進めている。旅費等についても支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内のグループホームにおいて、訪問、電話等で相談協議をしながら情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との訪問調査で生き立ち、家庭環境、家族構成等を聞き取り、施設での介護支援に取り組む。施設での生活に不安を抱かれないよう、安心して生活できるよう、利用者、家族に十分説明し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者、家族、施設が一体となり、介護支援をしていくことを伝え、安心して入居できるよう努めている。問題等があれば速やかに相談し、問題の解決を図っている。信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	長年住み慣れた自宅を離れ、施設入所、共同生活に移られるわけですが、不安の払拭と安心して生活できる環境施設であることを利用者家族に説明している。合わせて他施設のサービス状況についても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者はホールにおいて朝から夕まで皆さんとテレビを見たり、雑談したり一日を自由に伸び伸びと暮らしている。その中に介護員も加わり大勢の家族として日々の生活が成り立っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	親、兄弟、家族との立場繋がりを大切に、尊厳をもって接することの大切さをお互いに認識してもらおう。入居者は施設に面会があれば涙ぐんで喜びの感情を示される。又変える時は、寂しそうに見送られる。愛情の構築が大切である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷、生まれ育った実家、お墓参り等家族の引率があれば何時でも対応出来るよう支援している。四季折々の自然を満喫できるようドライブ等出かけている。施設訪問面会も途切れることなくあっている。	面会には、家族はもちろんのこと、知人の訪問も多い。美容師が事業所を訪れたり、行きつけの美容室へパーマや顔そりに行く利用者もいる。病院の受診の際には、化粧をする利用者の気持ちも尊重している。病院受診の際に、知人と会うことを楽しみにしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでは気心の合う人、趣味の合う人を対象に席替えをして一日が楽しく過ごせるような取り組みをしている。孤立することがないように働きかけに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等において、他施設等に転所されても、近況把握に努め、家族との連絡等図っている。入居施設を訪問することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の性格、個性、介護度、生き立ち等勘案し一人ひとりの思いや過ごし方意向の把握に努め、介護支援している。ホールでは一人ひとりが気ままに自由に一日を過ごしている。退屈させないよう介護員と共に寄り添う介護に努めている。	職員は、利用者の会話の内容が判りづらい場合でも、寄り添い、利用者一人ひとりの思いを把握する努力を行っている。昼間リビングで過ごす時には、トランプや体操する人、ゆっくりソファで寛ぐ人とさまざまである。昨年は、島内の家族の家を訪れたいという利用者の思いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生き立ちを把握し、個々にあった介護支援に取り組んでいる。個人の尊厳を守り他施設でのサービス提供においても取り込めるところは参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄、血圧、体温、脈拍、体重測定等日々の健康状況を介護員が把握し、体調管理と状況に御応じた介護に努め一人ひとりの暮らしを支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者家族や入居者から施設での日々の暮らしについて、要望や希望を聞き取り、職員で協議し医療情報等をもとに介護計画書を作成している。本人がより良く暮らして頂けるよう、日々研鑽している。モニタリングの内容確認変更を行い情報の共有に努めている。	長期6ヶ月短期3ヶ月の目標を立て、介護計画を作成している。ケアマネージャーは本人と家族に意向を聞き、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、サービス担当者会議にて計画を見直している。職員が毎日の引継ぎ時に話し合い、利用者一人ひとりのニーズを計画に反映させており、現状にあった計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録、業務日誌等で体調の状況、排便排尿、血圧、服薬等、毎朝のミーティングで情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家庭環境、家族構成、生き立ち等それぞれの個性を尊重し、個性に見合った介護支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心安全に日々暮らしていけるよう、地域、関係機関、他施設との連携情報交換等、交流を図っていききたい。美しい自然環境を満喫してもらうため、四季折々にドライブ等出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は定期的に係りつけの病院、主治医のもとに受診し服薬している。体調に異常が生じた時は24時間体制で対応している。受診内容結果については、家族通信で報告している。問題等あれば電話して家族との連携を図っている。	上対馬病院が利用者の主治医であり、職員が受診支援を行っている。時間外診療や緊急時の対応は代表が行っており、手遅れにならないよう早めの対応を心がけている。受診内容は「家族への通信」で毎月家族に報告しており、職員は受診ノートで確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護記録、業務日誌等で個々の体調の状況、排便排尿、血圧、服薬等、事細かく記録し病院受診時には持参し、情報を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院になった場合、ケアパスを作成し介護情報服薬等病院に情報を提供している。定期的に病院を訪問し、着替え洗濯物をしている。治療内容については、主治医と協議し早期退院に向けた話し合いを行い連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時において、週末期、看取りは行わないことを利用者家族に伝え理解を得ている。施設で最後まで介護に努めるが重度化した場合は他施設への入居、病院入院をして頂く。家族、他施設、病院等連携を図り利用者の希望に沿った介護支援する	事業所は看取り支援を行わない旨を契約時に本人・家族に説明し、承諾を得ている。食事が口から取れなくなった場合、主治医と家族と話し合い、入院や他の施設への転居先を検討しており、事業所のできる限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員を年2回要請して、救急訓練、避難訓練通報訓練等夜間想定で利用者、職員一体となり実施している。利用者の急変や事故対応において初期対応できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月夜間を想定した避難訓練等を入居者職員一体となり取り組んでいる。年2回消防署職員を派遣して頂き救命訓練消火訓練通報訓練を受けている。利用者の体調が急変した時は24時間体制で対応し応急措置が出来るよう訓練している。	毎月、利用者と共に夜間想定消防自主訓練を実施している。年1回消防署立会いの下、通報・消火・避難の総合訓練を実施しており、指導を仰いでいる。非常時の食料等備蓄品も確保している。昨年、事業所裏山の崩落があり、応急処置を行い不安があったが、今年度県が工事を行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格、個性、介護度、生い立ち等一人ひとりの思いを尊重し、言葉使い、礼節ある介護に努めている。個人情報、関係書類等保管にも注意をはらい、家族との面会電話等の会話応対等プライバシーに配慮している。	職員は、入社時に守秘義務に関する誓約書を提出している。利用者の個人記録簿は、スタッフルームに保管している。トイレの誘導時は、あからさまな声掛けはしないよう自尊心に配慮した言葉掛けを心がけている。ただし、2箇所あるトイレの内、1箇所は常にドアが開放された状態となっている。	トイレのドアを開放していることは、見守る側からの視点によるものであり、使用時にはドアを閉め、利用者のプライバシーに配慮した支援が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で一人ひとりの思いや希望を確認し、自分の意思決定が出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分等をくみ取り、個々に合った話しかけ応対等寄り添った介護支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の着替え、衣替え、購入等本人の意向にそった支援をしている。身だしなみや、おしゃれにもこと細かく支援し、四季に合わせた取り組みを心がけている。理容院にも意向に合わせて定期的に利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地産の食材を利用し、利用者の好物や食べたい料理を献立に取り入れるよう配慮している。年間の行事、四季折々の食材等献立にも工夫し対応している。テーブル拭き、配膳下膳等手伝ってもらっている。	利用者の好き嫌いもほとんどなく、毎食完食している。介護度の重い利用者に対しては、食材を細かく切って対応している。利用者の食べたいものを献立に取り入れたたり、誕生日には、個人のリクエストに応えたメニューを提供している。ひな祭りやクリスマス等の行事食にも心を配っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の処方をもとに栄養のバランス等配慮して日々の献立を作成している。嚥下機能の低下している利用者には、とろみをつけるなど工夫して、個々に合わせた取り組みをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口の中の汚れ、臭いをなくす航空ケアの重要性を日頃より伝えている。口腔ケアは個々に合わせて声掛け見守り介助を行っている。できない方は介助している。義歯の定期的な洗浄にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自尊心を傷つけないよう声掛け誘導をしている。便座までの誘導、衣服の上げ下げ、ペーパーの手渡し、お尻ふき等全介助が多くなった。体調管理と合わせて心地よい排泄ができるよう支援している。	介護度に関係なく全ての利用者に対して、トイレでの排泄ができるよう誘導し、自立に向けた支援を行っており、現時点ではポータブルを使用する利用者はいない。誘導する際には、他の人に気づかれないよう、さりげない言葉を掛けるよう心掛けている。排泄チェック表により、一人ひとりのリズムを把握し、早めの誘導を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄記録で確認しながら、食物繊維の摂取食材の工夫、毎日の運動等取り入れて、自然排便を促す取り組みを支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夏場、冬場と入浴時間を変えて、週3回の入浴で、衣類着替え、入浴介助等2名体制で支援している。バイタルチェックを行い体調のすぐれない人は、清拭等で対処している。風呂も広くゆったりとした入浴を楽しむことができる。	週3回の間隔で入浴支援を行っている。介助する職員が2名、風呂からあがった利用者の世話をする職員が1名と3名体制で支援している。浴槽も大きくゆったりと入浴することができる。入浴剤を使ったり、温度を好みの温度に設定したりと入浴が心地よいものとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のその日の体調、気分等見極めながら自室で休息、安眠できるよう支援している。夜勤者の引継ぎで夜睡眠がとれてない方は、積極的に昼間の休憩をとってもらよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方内容を職員が把握管理し、朝、昼、就寝前の薬を分包し、主治医の指示どりの服薬支援をしている。一日のバイタルチェックを行い健康管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活が楽しく、生きがいのある生活が過ごせるようその日のリズムに合わせた取り組みを支援している。ホールでは、カラオケ、折り紙、洗濯物たたみ、散歩等その日に合った取り組みを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候等配慮して施設廊下、施設周りの散歩等介護職員の見守り、付添いのもと支援している。四季折々の自然を楽しみ地域等へのドライブ等支援している。家族同伴の外出、外泊も積極的に支援している。	天気の良い日は、事業所の周辺を散歩している。家族と共に外出、外泊するケースもある。花見や島内へのドライブも行い、自然や季節感を感じることができるよう支援している。近年は、ホームの近くで国境マラソンの応援を行うことが恒例となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院代、薬代、衣服代お小遣い等預り金として家族から預り、月末に収支を報告している。本人の要求があれば、嗜好品、飲み物、衣服等その都度使えるよう支援している。お金の大切さも理解して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人、親類等積極的に電話出来るよう支援している。プライバシー保護のため、自室で子機対応もある。手紙は頂いても相手に返信出来る方はないようです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	美しい自然と穏やかな湾に囲まれて、個室は洋間、和室風の造りになっている。内装も落ち着いた色合いでバリアフリーとなっている。トイレ、風呂も落ち着いた空間で使用できる。外の眺めは四季折々の自然を感じることが出来る。	ホーム全体が木の温もりを感じる造りとなっている。玄関ロビーにはベンチやソファを置き、外出する際、腰かけとして利用している。ホーム内は、職員によって磨きあげられ、清潔感がある。日当たりの良いリビングでは、ソファやテーブルで利用者が寛いでおり、隣接するキッチンから調理の準備風景や匂いを感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内部は徹底した清掃で清潔感が感じられるホールでは相性の合う方、テレビを良く見られる方、トイレが近い方等それぞれに配慮して席の配置をしている。一日が楽しく過ごせるよう全てにおいて居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ回数の多い人、歩行が困難な人等については、トイレの設置が近くにある部屋を提供するよう配慮している。個室には布団入れ、物入れ等設置して衣類等がスムーズに出し入れできるよう配慮している。居心地良い工夫をしている。	居室には、十分な収納スペースがあり、整理整頓が行き届いている。ベッドは木目調の落ち着いた風合のものを用いている。利用者は、自宅で使用していた使い慣れた物を自由に持ち込んでおり、壁面の装飾は、利用者の好みを尊重している。職員は毎日清掃換気を行っており、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活環境造りに配慮している。玄関は雨の日でも濡れることなく車の乗り入れが出来る造りにしている。床はバリアフリーで転倒防止に配慮している。安心安全をモットーにしている。		